

危険ではない武漢菌、危険な武漢菌ワクチンと「間引き」について

医療関係者の憲法があるとすれば、その第1条には「患者を殺すなかれ (DO NO HARM)」であり、試験的な処方では、患者に危険性、副作用、などを事前に説明し、承認を得てから行う、尚患者が幼少、あるいは無意識、知能不全、などの場合には、正当な保護者の承諾を受けることという厳しい規約がある。

早くも1年になるが、初期の段階では、「ワクチンの開発には最低でも1-2年、その認定には数年かかる」と言われていた。

ところが「緊急事態」という理由で、医療の全ての運営規範・制約が大胆にも破棄され、1年未満で「完成」し、大規模に、全世界的に、医師、患者、国民にその危険性を知らせることもなく、半強制的に「ワクチンなるもの」を体内に打ち込まれている。このような事件は近年の「医学歴史上初めての超大規模な蛮行」である。過去においては、黒人や囚人やユダヤ人などを「本人の許可なく」使って危険な人体実験をしてきた。

しかしその数は少数であった。今回は「同時に」数十億人。

もちろん、誰も「長期的な副作用」例えば不妊性はわからない知らない。

最近の統計では、「益よりも害」が大きい、という確かな結果が次々と報告されているが、それは「公にデマだ」と否定される。

真実と嘘が逆転し、医学の倫理も科学の論理も無視される不思議な時代が現れた。その上に言論統制、つまり「議論、反論、反証を許さない」という前近代のオゾマシイ社会が全世界的に広まった。この様な理不尽な不当な事件は、度々起こるがそれは地方的な小さな隠蔽であって、特に独裁的な国ではよくある。

米国でも日本でもそんな事はかなり頻繁にあるが、全世界的同時的なものはなかった、と思う。では、何故今回？という疑問が残る。科学の世界では、真実、事実を否定してはその進歩が阻害されるので、「不都合な事実」でも、追試し確認し、嫌々ながらも事実として認める。

「最も簡単、単純な説明が、真実に近い、だろう」という「オッカムの剃刀」の論理が使われる。上記の「説明のつかない」奇怪な種々の現象の理由・説明を試みると、(以下と同様な結論を得た科学者、医師もいるが、たちまち封鎖される。)

1。動植物全ての生き物は、種の保存に真剣に対応しており、個別の生き物を犠牲にしても、種の保存、家族の国家の繁栄を意図する。戦前まで日本でも飢饉が来ると、「間引き」胎児、幼児を犠牲にする行為、が当然とされていた。家族全員が餓死するよりはマシ。つまり、食糧の資源が限られており、人口を制限する必要があった。

最近では、世界の人口が80億となり、僅か過去50年間に倍増している

2。しかも情報の拡散が進み、先進国の優雅な生活が後進国にも正確に動画で日々伝わってしまう。貧困も貧しい食も、比較されて初めて認識され、不満が募る。沢庵と飯で満足してきた日本人が明治に入って初めて「牛丼」の旨さを知り、以後果てしないグルメの追求が膨大な費用とエネルギーをかけて、世界中から美味しさを輸入する。世界人口の大部分が未だに「沢庵飯」を食べ、暖房も冷房も冷蔵庫も自動車も無い国に住んでいる。

3。ところが「牛丼も冷房も車」もみんなに与える資源も予定も世界にはない、

4。勇敢な飢えた人は当然「不法移民、難民」となって豊かな国へ移転する。その巨大な人の波が大きすぎれば、豊かな国もやがて自己崩壊する。という当然な解析が行われ、夫婦がやむなく「間引き」をした様に、世界的規模で、そんな不本意な、しかし論理的な秘密の「必要な合意」が生まれた、のかも知れない。

5。さらに、近い将来にAIが殆どの人間の労働を不要とし、単に「無駄飯を食う居候」が増える、

6. 近年トランプ追放選挙で実験確認された「完璧に管理」された民主的な選挙制度では「有権者」さえも無用となった。映画『エリジウム』(Elysium、2013年)で予測された世界が早めに現実化してきた。宇宙船はまだ出来ていないので、金持ちは既に、遠い深い海に阻まれ隔離され独立存続可能な安全な人口の少ないニュージーランドへ逃げている。

もちろん「真相はこうで」はない、かも知れないが、日本政府もNHKなども、そんな合意に参加している、らしい。

故に、間引きの対象にならないためには、各自が自己防衛を試みされたし。この状況は戦時中の日本とよく似ている。

大本営発表はいつも「連戦、連勝」だったが実際には「連戦、連敗」であった。それを知る少数の者は、なんとか徴兵を逃れ、生き延び、戦後の復興に貢献した。その一人が「嘘を見ぬき」敗戦を認め、無駄な国民の犠牲を止めた昭和天皇であった。「、、、、加之(しかのみならず)敵ハ新ニ 残虐ナル爆弾(注。武漢菌)ヲ使用シテ頻(しきり)ニ 無辜(むこ)を殺傷シ 惨害ノ及フ所 真ニ 測ルヘカラサルニ至ル。而(しか)モ尚(なお)交戦ヲ継続セムカ 終(つい)ニ 我カ民族ノ滅亡ヲ招来スルノミナラス 延(ひい)テ 人類ノ文明ヲモ破却スヘシ、、、、1945年8月15日正午「終戦の詔書」

「武漢菌ワクチン」について。結論から先に言うと、危険である。殺されたくないのならば、子孫を残したいのならば、特に子供にはしてはいけない。

政府公式の宣伝文句として、打てば、1。感染しない、2。感染しても重症化しない、3。感染しても他人に遷さない、だからヤレと言っていたが、結果は全て「否」どころか、より頻繁に感染し、感染させる、と言う逆の結果が既に出ている、にも関わらず、反強制的、あるいは強制的に義務付けている。

もっと恐ろしい事は、本来誰でも持っている「自然の免疫力が、長期的、恒常的に失われる」と専門家が主張している。

つまり、「百害あって一利なし」と言う。ワクチンのため、武漢菌のみに特化した免疫は、その他の普通の他のウイルス、バイキン、カビ、などへの攻撃力が減少し、インフルエンザ、風邪、などが重症化する。全ての普通の軽い病気が命取りになる。

武漢菌に対する予防薬・方法も、感染してからの処方箋、それも安く非常に安全で効果的なものが臨床試験によって確かめられて、多くの命(トランプ氏もその一人)が救われているが、政府や正式の医療機関がこれを無視、あるいは隠蔽し、危険な嘘だ、とも言っている。

先日投稿した臨床医師会FLCCCAの処方箋などを参考されたし。

資料の一部を日本語にも翻訳されている。信頼できると思う。

<https://covid19criticalcare.com/covid-19-protocols/translations/>

いつの時代でもどこの国でも、自分だけが頼りだ。「私には、わかりません、知りません、あなたにお任せします」という礼儀正しい国民が日本には極めて多い。

安心、安全、清潔、平和を当然とする信者の欠点。